

2012年度芝浦工業大学工学マネジメント研究科 自己点検・外部点検評価

項目	各委員の評価
1. 理念：使命、目的および教育目標	<p>教育理念あるいは改正学則は、概念としては良いと思うが、P25~29に示された卒業生の意見の中の、本研究科に対するポジティブ評価のキーワード等を入れるともっと訴求力が出るのではないか。</p> <p>企業の求める人材は鋭い先見性を持って「選択」できる人材と「集中」して継続できる力である。MOTの理念であるイノベーション人材の養成を目的とする専門職大学院は企業の求める人材と合致しており、数多くの学生の輩出を望んでいる。</p> <p>イノベーションの担い手の育成として、技術経営、技術政策に精通し、社会的経済的な価値の創出、新規産業の創出人材としているが、日本の制度や仕組み等の変革はそれほど容易ではない。したがってこの点を実現するための方法等も国際比較を通して考えさせる工夫も必要である。</p> <p>本研究科の基本的理念と教育目標は適切であると考えます。</p> <p>「イノベーション 技術の事業化と価値創造」というキャッチフレーズは良いですね。「イノベーション≠技術革新」が、ようやく定着してきましたね。</p>
2. 学生の受け入れ	<p>公的機関訪問、ハイブリッド講義、大人の達人セミナーなど工夫がみられる。成果に期待したい。</p> <p>オープンキャンパス、シンポジウムの開催による情報提供の強化にもかかわらず、定員割れが続いているのは大変残念なことである。</p> <p>平日通学できない人のためにインターネットを使ったハイブリッド講義は有効と考える。どれだけ興味のある学生を集められるかが課題。</p> <p>相当な改善がみられるが、しかし、インプットは理解できるが、アウトプットとしての輩出する人物像が明確ではない。ハイブリッドの講義によって、どのような効果やグローバル化の強化が図られたのか等の明示が必要である</p> <p>授業料値下げ（60万円）、戦略的広報、ハイブリッド講義、特にインターネットの活用などはいずれも適切で評価します。ただ長期的なトレンドを見ると、MBAのようにMOTが企業で認知されることが必要です。MOT提供大学の協力連携による人事担当者への啓発活動が有効と考える。</p> <p>ハイブリッド講義は野心的な試みだと思います。2013年度の志願者数には影響がなかったように見えますが、そう考えていいですか。</p> <p>新卒者への働きかけと受入数については、議論が必要でしょう。数が増えて新卒者コミュニティが形成されると、学生文化が変わってきます。</p>
3. 教育の内容：方法・成果	<p>カリキュラムの基本コンセプトに、演習は講義形式でなく、事例研究、対話形式に重きを置くことを示したらどうか。対話形式、出来たら英語の効果は大きいと思う。</p> <p>大学院としての高度の専門性と深い学識を養うための特定課題研究は有効と考える。</p> <p>一方早い段階からの一般的経済・経営知識を身につけさせることは、理工系の学生にとって幅広い知識・社会的能力を養う上でも重要と考える。</p> <p>どのような成果なのかをフォローできるシステムが必要ではないか。MIMAサーチの応用ができるのではないか。また、特定分野の絞った育成方法は必要なのではないか。</p> <p>平日と週末とでキャンパスが異なるのは、学生から見ると不便です。利便性の高い芝浦キャンパスに集中すべきだと思います。さらに、グローバル化を意識した教育活動を展開していただきたい。</p> <p>クォーター制は面白いですね。私自身の教師としての経験では、2限連続の講義、歓迎です。ゲストを招いて、ディスカッションするなど、いろいろな試みができます。ただ1回の欠席のダメージが大きくなります。ここをどうカバーするか。</p> <p>全部を芝浦校舎で行うのは難しいのでしょうか。</p>
4. ファカルティ・ディベロップメント	<p>「授業評価アンケート」によってFDを向上させることは、教員自身のふり返りと反省、次回への改善を促すことにはなると考えるが、FDと伴に教員が自らの信念に基づきシラバスを作成し、講義内容の充実に研鑽することが重要。</p> <p>FDの評価もさらに具体的な内容に踏み込むべきである。</p> <p>ハイブリッド講義の教材作成は重要です。質の高い、興味を喚起するような教材が作れるかどうかは、オンライン教育の成否左右するので、大学としての支援が必要です。</p> <p>シラバスと講義内容の不一致は、やっかいな問題です。学生にとっては、履修するかどうかを決める最も重要な情報はシラバスでしょう。しかし教師としては、履修生のバックグラウンドなどによっては、シラバスどおりの講義ができなくなる場合もあります。シラバス締め切り時点と、講義開始時点での状況変化もあり得ます。</p>
5. 学生生活への配慮	<p>院生室の配置をはじめ、タブレット型端末の配付、図書館での学術資料の管理、更には奨学制度の充実まで学生にとっては至れり尽くせりであり申し分のない環境である。</p> <p>むしろハングリー精神が欠如していないか心配であり、多少の不便があっても本人の意欲をかき立てる強さが欲しい。</p> <p>業界の最新状況を発信できる場はほしい。</p> <p>キャンパスが2カ所に分かれていることのハンディをなくすべきだと考えます。貸与奨学金は有効だと考えます。</p> <p>夜間講義が多いときに、事務職員にどう対応してもらうかは難しい問題です。よくやっておられると思います。</p>
6. 国際交流活動と異文化コミュニケーション	<p>国際化は、社会人学生であろうと学部新卒生であろうときわめて重要。立命館や秋田の国際教養大等も参考にしてもっと強化すべき。首都圏で両大学のよう な評判が取れると社会人は大幅増となる。</p> <p>韓国延世大学との合同セミナー、合同テレビ会議の様な企画を数多く開催されることに期待。</p> <p>更に充実した教育機会を広げるため、2~3ヶ月の期間の交換留学なども必要と考える。</p> <p>グローバル化の中で、共同研究等の踏み込んだ方法があるのではないか。</p> <p>MOTの国際ネットワーク構築により、学生の視野が広がるだけでなく、本学MOTの魅力の向上につながります。アジアに加え、欧米との交流を検討してください。</p>
7. 卒業生の進路	<p>卒業生の意見は、本研究科のあり方を考える上で、大変貴重な意見である。このうちから学部新卒生対応の事例研究に取上げるものも出てくるのではない か。尚、ポジティブなものばかりでなく、苦言にも耳をかくことが大切。</p> <p>資格取得や特定の業務知識を習得するよりも、経営戦略立案のための基礎的知見を学び、広い視野に立って考える力を習得することに焦点を合わせた指導方針に沿った結果が出ていることは卒業生のアンケート結果から明らかであり、まさに実学で効果のあるMOTになっている。</p> <p>総合的な大学からのコンサルティング支援を追加できないか。</p> <p>卒業生アンケートではネガティブな意見や、改善を求める意見もあつたはずと思われるが、記述が見当たりません。これらこそ改善につながる意見であり、それらを踏まえた改善を望みます。</p> <p>社会人学生が、勤務している企業でMOT教育が役立ったと答えている例が多く、いいことだと思います。ただ学生は経済的・時間的に、かなりの負担をしています。その負担に成果が見合っているかどうか、学生募集へのフィードバックとなるかどうか、気になるところです。</p> <p>新卒学生の進路開拓が、これから大変になりますね。</p>
8. 教員の教育・研究活動	<p>教員1人あたりの予算は決して十分な額と言えないことが分かった。予算管理については一概に論ずることはできないが、教員の教育研究活動に対する手当 について増額できる方法を導き出せるよう検討願う。</p> <p>実践的体系的な活動をさらに強化してほしい。</p> <p>理工学系の教員は一般に、研究して論文を書くことを優先しています（自身を研究者と自認）。研究を通して教育するという意識が、特に大学院では普通 でしょう。MOTでは、これは成り立ちにくく、教育を重視しなければなりません。教員よっては、これに不満の人が出てきます。この問題はありませんか。</p>
9. その他	<p>民間企業の参加を得た「新事業創出戦略」講義はベンチャー育成や日本企業のグローバル戦略の創出に有効と考える。また、知的財産の管理、活用は今後 益々その重要性和役割は増大すると考えられるため、今後も積極的参加を求めたい。</p> <p>ファイナンス戦略や社会インフラ経営戦略等を追加できないか。</p> <p>科目等履修生が3社というのは少ないと思います。もっと大きなニーズがあるはずで、積極的な開拓を望みたい。この中から本科生になる社会人が出てくる はずだと思います。</p> <p>日本の技術者は一般に、ランニング・コストには敏感だけれど、資本コスト（たとえば減価償却コスト）には関心が低い、という印象を持っています。芝 浦工大のMOTに、関連した教育がありますか。</p>
10. 今後の課題	<p>ハイブリッド授業は、他に例も少なくいろいろと試行錯誤があると予想されるが、将来性は大いに期待できる。メディア授業の段階で、学生に自ら考える ように仕向け、面接授業での対話で更に深化させることで実のある授業となろう。</p> <p>教員数の欠員による不測の問題、学生数の継続的確保も問題、平日出席不可能な社会人学生のためのハイブリッド講義の運用における不測事態の問題が山 積しているが、いずれの問題についても一つ一つ確実な対策と決意を持って取り組んで欲しい。</p> <p>学生数の確保策の強化が必要である。</p> <p>MOT卒業生が社会で高く評価され、それがMOTを志望する学生を増やすというフィードバックを実現できるかどうか、MOTは正念場に来ているように思いま す。</p>
11. 総括	<p>工学マネジメント研究科はMOT学生に対し、目指すべき目標と方針が明確になっており、かつ施設や学生生活への配慮も十分成されていると感じる。 教員への研究費予算の問題や今後の教員の不足、学生の不足の問題など、解決すべき課題は多いと思うが、実学を身につけ、高度な知見と高い倫理観を 持った学生を世に送り出す数少ない大学であり、今後も高邁な精神で続けて欲しい。</p> <p>改善すべき点を相当改善しているものの、国際競争に優位性を獲得する芝浦工大の特色を出すようにできないだろうか。たとえば、社会インフラ等のコー ディネート能力人材、顧客の戦略機能を発揮するソフトシステム構築能力人材等現状の産業や企業変化を先取りする人材の育成等が重要なのではないか。</p>